

## 第376回放送番組審議会

1 日 時 2017年6月20日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 伊藤有孝委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、  
五大路子委員、吉川知恵子委員  
tvk; 中村行宏社長、嶋田充郎報道局長、高橋桂祐プロデューサー、近藤和之  
編成部長

### 4 議 題 (1)放送番組

資料:①6月のタイムテーブル

②6月～7月の特番一覧表

### (2)視聴合評

『KICK OFF F・Marinos』

2017年6月9日(金)22時～22時30分

### (3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年5月13日(土)～2017年6月16日(金)

・第375回(5月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2017年6月9日放送VTR)

### 5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2017年7月7日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:15)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長           それでは定刻になりましたので、第376回テレビ神奈川放送番組審議会を始めさせていただきます。

山田委員長           それでは始めさせていただきます。梅雨入りしてから2週間ほど経過していますが、横浜は降雨量が少なく、そのためにアジサイの開花が遅れているとも言われています。今日は夏日のような蒸し暑さですが、ちょっと風が吹いているのでその分凌ぎやすいですが、横浜は最高気温29度になるそうです。明日はまた降雨で最高気温が23度ということで、6度も差があるということで。みなさんなかなかまだ暑さに慣れないような状態ですが、健康に注意をしていただいて、この梅雨を乗り切りたいと思います。それでは第376回の番組審議会を始めさせていただきます。中村社長の方からよろしく願いいたします。

中村社長           中村でございます。本日もお忙しいところをありがとうございます。イギリスで選挙があり、フランスで選挙があり、国際的な部分では大きく揺れ動いていますが。わが県内でも先週日曜日は三浦市長選挙、12年ぶりの選挙で、わりと僅差で2,300ということで、なかなか現職も厳しい戦いをしたんだなという思いもします。そして今度の日曜日は横須賀市長選挙です。これもどうなるか本当にわからない。後で特番表で出てきます。三浦はやりませんでした、今度の横須賀は出口調査もやって、20時に番組を構えようということで考えています。その後1ヶ月以上経って横浜市長選ということで、こちらの方もまだ告示までさらに何人かお出になる可能性もあるのかなと言われていたようです。その前に、お隣では都議選があるということで、県内の各党の方も、都議選に向けて、やはり隣のことで、すから、「東京にお住まいの方はいらっしゃいますよね」というようなことが、多分これから行われてくるだろうと。国政選挙で

はないけれど、県内では大事な選挙、都議選というような、国政にも響くであろうようなことがこれからあります。少なくとも私どもでも地方の首長選については、それほど大きな時間ではないですが、割きながら開票速報というようなことで考えています。地元の動きということもしっかり追っていきたいということで、この夏は結構報道が忙しくなると思っております。本日もよろしくお願いたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず放送番組について。お手元の6月のタイムテーブル、あるいは6月7月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

近藤編成部長

それではまず6月のタイムテーブル。表紙と裏表紙は「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」で、川崎の撮影になります。開きましてまず「ヤルジャン！45」スペシャルウィーク。前回の放送番組審議会でもご紹介させていただきましたが、先週まで視聴率週間を実施しておりました。日記式の調査ではございますが、スペシャルウィークとして各番組のコラボレートや、スペシャルなプレゼントを用意してという形で、盛り上げていきました。その番組のご紹介になります。続きましてはスポーツ番組です。これも前回ご紹介しました神奈川ダービーの生中継、10年ぶりに実施しました。そして今日視聴合評いただきます「KICK OFF F・Marinos」「ファイト！川崎フロンターレ」。そしてベイスターズ。ベイスターズも先週4連戦はこのスペシャルウィークに入っていますけれども、プレゼント応募も過去最高という形になりまして、盛り上がっているなど感じています。タイムテーブルがございまして、見開いてこちらは6月3日スタートの「次世代ロック研究所」。こちらはソニーさん提供で新しい音楽番組がスタートします。右の方、「走LIFE」。5分番組ですが、横浜マラソ

ンに向けてランニングのトレーニング番組を始めました。時代劇スペシャルもスペシャルウィークに合わせて編成しました。「神奈川ビジネスUp To Date」「クルマでいこう！」となっています。「トモダチゲーム」は制作委員会のものですけれども、映画が始まりましたので、こちらのご紹介です。8月、毎年恒例となりました「ディズニー・オン・アイス」のご紹介と、主催・後援の一覧です。タイムテーブルは以上です。続きまして6月7月の特別番組一覧、A4のこちらのご紹介になります。6月24日「ボートレース」はJRT四国放送さんから生中継です。6月24日、「JA共済杯 神奈川女子学童選抜野球大会」。5月7日から6月4日の大会の様態をダイジェストでお送りします。優勝は横浜スターガールズ、準優勝は中原ルーキーズです。6月25日のボートレースは24日と同じものです。6月25日の「ポリショイサーカス特番」。これも毎年恒例になりますが、7月28日から8月6日まで横浜市の文体で行われますポリショイサーカスのご紹介番組です。6月25日20時から、先ほど中村の方からもご紹介がありましたが、「横須賀市長選挙出口調査速報」ということで、神奈川新聞さんと協力しまして出口調査速報を実施します。横須賀市長選挙は混戦となるかなと思います。23時55分から開票速報を5分番組でお送りします。6月30日、「ディズニー・オン・アイス」。先ほどご紹介しました8月17日から8月21日まで横浜アリーナで開催されるディズニー・オン・アイスの紹介番組です。7月3日4日、夕方6時半から「神奈川県議会中継」、こちらは平成29年度第2回定例会をダイジェストでお送りします。7月6日「ノジマデジタル一番星ナイター 放送直前情報」で、こちらは18時15分からベイスターズナイターがございしますが、こちらがノジマさんの冠ナイターですので、その直前に番組としてご紹介します。そして7月14日から25日は「都市対抗野球ダイジェスト」で、これは毎年「5いっしょ3ちゃんねる」ということで、関東5局で協力

して制作している番組です。テレビ埼玉さんが中心となって、今年は西関東地区代表ということで、横浜市の三菱日立パワーシステムズと、川崎市の東芝さんが大会に出られます。7月19日夜8時から「僕たちの小トリップ～伊豆・下田篇～」ということで、伊豆の自治体やレジャー施設のご紹介の番組で、イケメンが回る番組です。7月23日日曜日「夏休みアニメスペシャル ルパン三世」、テレビスペシャルシリーズの第5作で、93年日本テレビ制作です。7月30日日曜日が「横浜市長選挙出口調査速報」で、20時から20時10分です。林さんの三選がどうなるかというところですが、こちらを神奈川新聞さん共同通信さんとともに協力してお届けします。23時30分から15分番組として「横浜市長選挙開票速報」ということで、お届けします。こちらにはありませんが7月8日から7月29日は全国高校野球が始まっておりますので、そちらの方の生中継、夜は高校野球ニュースです。今年は朝6時半から再放送を始めましたので、是非ご覧になっていただければと思います。あと、リリースがございますが、こちらはお時間があるときに目を通していただければ。ご報告の一つとして5月27日28日、毎年恒例の「秋じゃないけど収穫祭」ですが、今年も横浜公園と、ちょっと前年と違うところでやりましたけれども、14万人の動員をかけたということと、あとは先ほどタイムテーブルでご紹介させていただいたものになりますので、お時間があれば、目を通していただければと思います。事務局からは以上になります。

- 山田委員長                      ありがとうございました。事務局から6月のタイムテーブル、および6月から7月の特番一覧表について説明がございましたが、これについて何かご意見、ご質問等がございましたら。
- 白石委員                         7月30日の「横浜市長選挙出口調査速報」。これは過去やっていましたか。
- 嶋田報道局長                    過去やっています。

白石委員 やっているんですか。

嶋田報道局長 中田さんのときに、たしか翌日開票のケースが一度、中田さんの二期目ですか、ありましたが、そういう時はイレギュラーになっていますが、大体横浜市長選クラスの規模になると速報を。

白石委員 ということは、事前投票の。

嶋田報道局長 8時に投票自体は締め切りますので、当然それまでの我々の出口調査を。当日。期日前もやりますけど。

白石委員 期日前投票の聴き取り。

嶋田報道局長 期日前投票もやりますし、当日の出口調査も。

山田委員長 その辺の選挙があつて、開票になりますよね。当確の「これでいこう」という判断は報道局長が自ら決めるわけですか。

嶋田報道局長 そうです。私が責任をもってやりますけれども、その際には様々、当然出口調査の結果、そして事前の取材、そして世論調査ですとか、様々な要素を複合的に考えて当選確実を判断することになります。

白石委員 当確は出しているんですか。

嶋田報道局長 出しています。

中村社長 ただ場合ももちろんあります。それは出口である程度の差が。「これだと絶対に追いつけないよね」という過去の統計的なこともありますので、そこら辺を判断すると。

嶋田報道局長 当選確実も、当然8時を超えて比較的近い時間で出すということも当然ありますし、その後開票作業が進む中で公式の票が発表される前に、我々の方で、途中の、「確実にこの票をこの候補が獲得した」という情報がさらに入ってくれば、その時点で当選確実とか。様々な段階でその時の状況に応じて、当選確実の判断をします。当選ということになると、当然公式に発表された票で

確実に逆転されないというときには、もう「当選確実」ではなくて、「当選」という発表になります。

白石委員 ありがとうございます。

山田委員長 他にございませんか。

五大委員 6月15日、「テレビドラマ化決定」というのは、これはtvkが制作するわけじゃなくて、制作会社が制作したものを。

近藤編成部長 「サチの寺ごはん」というのは制作委員会方式で、6局がお金を出し合って。制作するのは制作会社さんです。

五大委員 その6局の中にテレビ神奈川が入っている。

近藤編成部長 はい。今回幹事局はメ〜テレさん、名古屋のテレビ局さんが幹事になりましてのドラマ化になります。

五大委員 わかりました。ありがとうございます。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長 こちら、毎週金曜日夜10時からの「KICK OFF F・Marinos」になります。本日は番組プロデューサーの高橋が同席させていただきます。それではよろしくをお願いします。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴する前に、番組を担当されましたプロデューサーの高橋さんから番組のコンセプトなどをお話していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

高橋プロデューサー 改めまして、tvkのスポーツ部に所属しております高橋と申します。この「KICK OFF F・Marinos」のプロデューサー兼ディレクター等もやらせていただいております。よろしくお願いいいたします。この度は足をお運びいただき

ましてありがとうございます。簡単に番組の概要を説明させていただきます。

山田委員長                   どうぞお座りください。

高橋プロデューサー「KICK OFF F・Marinos」という番組ですが、元々はJリーグが開幕する前の、横浜F・マリノスの前身である日産FCというチームがあったんですが、その時代から番組は続いております。細かく言いますと1983年の4月から「日産サッカーダイジェスト」という番組でスタートしました。Jリーグの発足に伴って、1993年5月より番組名を「KICK OFF Marinos」とさせていただきます。1999年に横浜フリューゲルスという、横浜にもう一つJリーグのチームがあったんですが、そこが消滅することになり、横浜マリノスが吸収するという形で、それで横浜F・マリノスというチーム名に変わって、番組名も「KICK OFF F・Marinos」に変更しました。ということで、「日産サッカーダイジェスト」から数えて、今年で34年目を迎える。これは恐らく全国各地方局でも、Jリーグチームの応援番組はやっているんですが、しっかり調べたことはないですが、恐らく一番古い歴史のある番組になっております。この番組は当然クラブ横浜F・マリノスの協力をいただきまして、オフィシャルの応援番組として試合結果のみならず、先ほどのVTRにもありましたが、試合前のイベントの様様だったり、クラブの情報なども紹介させていただいております。とにかくわかりやすく横浜F・マリノスに特化した情報を毎週金曜日にお届けさせていただきます。番組MCは波戸康広さんとい方なんですが、元々は横浜フリューゲルスでJリーグのサッカー選手になりまして、そこからF・マリノスに移籍、その後柏レイソル、大宮アルディージャというところにも移籍されましたが、最終的にまた横浜F・マリノスに戻ってきまして、現在はクラブの中で公式のアンバサダーという形で活動されております。日本代表にも選出されていまして、日韓ワールドカップの前ですが、キャップ数は6とか7とか、そんなに多くはないんですが、

最後の日韓ワールドカップ直前に落選してしまったんですが、元日本代表選手ということで、当然選手たちとのつながりもありますし、いろんな選手とのコミュニケーションも取れるということで、今年で3年目になります。「KICK OFF F・Marinos」になってからは、初代は水沼貴史さんが長らくやっけていて、その後は鈴木正治さんという方も9年間 MC を務めていました。その後三代目の波戸康広さんで3年目を迎えているという状況です。私もこの番組を担当させていただいて3年になりまして。ちょうど波戸さんと同じ時期に担当させていただきまして、毎週取材に行きまして、番組を制作させていただいております。この機会に是非皆さんのご意見を頂戴しまして、番組の参考にさせていただきたいと思いますので、貴重なお話を伺えればと思っております。よろしくお願ひします。

山田委員長 この番組は当然 F・マリノスの協力を仰ぐわけですね。

高橋プロデューサー はい。

山田委員長 フィルムはチェックをしてもらったりとか、そういう過程はあるんですか。

高橋プロデューサー 夜10時からの放送なんですが、収録自体は夕方の6時ごろから本番収録をしています。そこに広報の方を、毎週必ず1人立ち会っていただきまして、その打ち合わせの段階からチェックをしていただきまして放送に臨んでいます。

山田委員長 いろいろうるさい注文は出ますか。

高橋プロデューサー 最近は特にはないんですが、ちょっと選手の言い回しだったり。やはり広報の方も選手を守る立場でもありますので、たとえばミスをしたところを見せるにあたって、「コメントの言い回しを変えてください」という部分はあります。取材の時は常にコミュニケーションをとっている形でやらせていただいておりますので、そこまでうるさくは、今、現状では。

山田委員長            ありがとうございます。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思います。いろいろ質問が出るとは思いますが、重複する面もあると思いますので、それは最後に高橋さんの方からまとめてお答えください。それではトップバッター五大さん。

五大委員                どうもスポーツ音痴なので。ただ新横浜なので、地元なので、すごいみんなに出会います。興奮状態をよく肌で感じておりますし、私もFIFAのときは球場に行きまして見ましたからわかるんですが、今お話を聞いていて、34年間をこの地元のグループを応援しているという、このtvkの姿勢は素晴らしいなと思います。ローカルにこだわっているものを応援し続けるという姿が、とても原点だなと思いましたので、いいなと思います。一つだけ。女性の方はアナウンサーですか。

高橋プロデューサー    正式なアナウンサーではないんですが、ホリプロに所属しております、そのアナウンス事業部というところがあるんですが、そこで少ししゃべり方とか、そういったものを学んだ方を3年前に。

五大委員                とてもかわいくてピチピチしていいと思ったんですが、質問の言葉がちょっとよくわからないことが結構あって。舌足らずなところがあって。その質問がもう少しわかりやすいと、うるさいおぼさんだと思われるかもしれませんが、やはりちょっとわかった方がいいなと思いました。その方が余計かわいくてわかりやすいというのでいいと思いました。面白かったのは、インタビューの選手の私服。荷物を持って帰る寸前の格好が、各個人の終わった後の姿が見られてとても好感が持てました。選手が「僕たちが頑張る分、皆さんも仕事頑張ってください」というのが、とてもいいメッセージだなと思いました。気になったのは「わかりやすい」ということをテーマにしているのであれば、わかりやすい質問を相手に伝えることかなと感じました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして林さんお願いします。

林委員

34年ですか、日産クラブ時代からの番組ですので、地元テレビ局らしい感じで。私は鈴木さんの時にはよく控室でお目にかかったのです。波戸さんに代わってからよりも見ていました。ただ波戸さんも非常にテキパキしていて、女性も明るくて好感を持ちました。ただ注文というか、これがお聞きしたいことなんですが、欧州のサッカー番組なんかを見ていると選手よりも、むしろ監督に聞きますよね。「KICK OFF F・Marinos」という応援番組だからということでしょうけど、監督に話を聞いてもいいんじゃないかという気がしました。それから試合中にバックミュージックを流すのはいいと思うんだけど、スタジオからの放送の時に流す必要はあるのかなど。ちょっと耳に、強く感じましたね。できれば波戸さんの一手のコーナーをお持ちだから、陣形みたいなものをフリップで示していただいて説明をしていただければ。サッカーに非常に詳しい方が見ているでしょうから、より親切なのではないかなど。それからこれはカットされていましたが、若い方、遠藤君とかインタビューされていましたよね。あれは非常にいい企画だと思っていて。ただ「いろいろ話を聞いたんだけど」と、波戸さんが番組でおっしゃっていたんですが、番組の時間構成上そうかもしれませんが、短くなっていて、選手としての目標や気構えは結構ですが、普段どういう生活をしているのかっていうのが。まだ10代でしょうから、その辺をもうちょっとファンとしては知りたかったのではないかという気がしました。総じて非常にスポーツ番組らしくテキパキした運びでよかったと思います。できれば冒頭の、あれは、オイリオさんのあれは。

高橋プロデューサー

そうですね。中継の方もやっています、そちらの方にスポンサーが付くような形になって、そのフォローを応援番組でさせていただいたという経緯があります。

林委員 「リーグタイム」じゃないのでなかなか難しいんでしょうけど、できればフルタイムで選手や試合が見たいという気がしました。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。続きましては二宮さん。

二宮委員 見た印象はマリノスファンのための番組だと思いましたけど、今高橋プロデューサーから番組のコンセプトを言われて、確かにそうですよね。そういう意味で、ファンにとってはたまらない番組ではないかと思います。特にいい点は、たまたまとったからかもしれませんが、得点パターンを解説して、得点した選手のコメントを出すというのはわかりやすいなと思いました。全体的には、選手個人を伝えるような意識があるかなと。U-25とU-19、ああいう選手がいましたので。チーム全体を伝えることもあるでしょうが、それぞれ個人のパーソナリティを出すように努力して作っているのかなという印象を受けました。そういう意味で、私はマリノスのファンではありませんけれども、ベルマーレなものですから。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。それでは、白石さんお願いします。

白石委員 私は日産出身で。日産が野球とか卓球とかマラソンとかみんな休部して、選手を解雇して、ゴーンが力を入れてサッカーを強くしていますけど。私は野球も卓球もマラソンも残してもらいたいと。だから私はあまりマリノスに力はいれていなかったですが、だけど何回か行きましたけど。見方がわかりにくいです。ネット際はものすごい熱狂するわけですが、真ん中が見にくい。特にグラウンドに近いところはわからない。動いているのはわかるけど。カメラアングルは高いところから撮っていますから、非常によくわかるんですが、グラウンドにいるとわからないです。4万何千人の人が。ファンの熱狂は雰囲気です。テレビとしては非常にわかりやすいアングルですね。得点をした人のお話なんかも、みんな冷静に。「みんなそうなんだろうな」と。相手とコンタクトを取って、それ

は大変な技術だなと思います。それが一つのプレーで、素晴らしいですね。  
今日はダービーということで、ビッグゲームなので、このゲームはこれでいい  
と思うんですけど、子どもの教室とかあるんでしょうね。

高橋プロデューサー はい。

白石委員 なかなか入れないような狭い門のようですけど。非常に一生懸命子どもたちが  
が熱狂して。そういうのは他では報道してくるんでしょうけど。

嶋田報道局長 先週の放送なんかは。

高橋プロデューサー そうですね、金曜日にちょうど。

白石委員 最近ちょっとやってましたけどね。非常に熱狂されているみたいですから、で  
きれば放送していただければと思います。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして吉川さんお願いします。

吉川委員 俊輔が抜けたあとは、どちらかというと横浜市民はベイスターズの方に熱狂  
的で、マリノス人気が低迷しちゃっているかなと、私も俊輔がいるころはスタジ  
アムに行ったけど、最近行ってないと思う中で、34年間ひたすらこういう番  
組を続けていただけるということは、やはりローカル局として大切な使命なん  
じゃないかなと思いました。波戸のトークは、ごめんなさい、この番組で初め  
て見たんですが、すごい良くて、なかなかいい起用だなと。私は現役時代の  
波戸選手は知っているんですが、数あるサッカー番組の中でもわかりやすい  
し、いい語りだなと思って見ていました。一方で、五大さんがおっしゃって  
いましたが、小山さんはかわいらしいし声もいいんですけど、時々波戸選手と  
の掛け合いのなかでおざなりな対応だったり、全然スルーしちゃって受け止  
めてなかったりとか、「うんうん」と相槌しちゃったりとか、耳障りな点があっ  
て、もうちょっと彼女には。可愛らしいから、いいといえればいいんですが、トーク術  
を上げてほしいなと思いました。それから、番組の最初で「Today's LINE

UP)として番組の内容がコンパクトに示されているんですけど、これはたとえば熱狂的なある選手のファンの人が「今日は代表インタビューがあるんだ」と、録画の準備をしたりとかもできるので、いい工夫だなと思いました。それから神奈川ダービーの試合の振り返りという意味では、やはりピッチの表情とかもほしかったなど。円陣を間近で撮っていたカメラアングルがあったんですが、私もスタジアムへ行って、いい席から見せていただくこともあるんですが、同じ選手との目線でカメラが入って、どういう顔をしているのかというのはファンにとっても珠玉の宝映像になると思うので。せっかく入れるので、もっとピッチの監督の表情とか、アップしている選手だとかそういうのもっと入れてほしいなと思いました。それからこれも五大さんと同じで、印象的だったのは試合後のインタビューで、全員ユニフォームを脱いで帰り支度をしている場面だというのは印象的ではあったんですが、ただ一方で、この方がじっくり話が聞けるかもしれないんですけど、試合の高揚感が選手もちょっと醒めたところでのクールなインタビューになりがちというところで、そこがもろ刃の刃の点かな。私は他局でも私は見たことは。代表選手でスーツに着替えて何とかというのはありますけど、こういう普通の試合でああいう姿は見たことがなかったので、新鮮でした。インタビューのときの小山さん、細かいことですが、小山さんの顔のピントだと思うんですけど、顔半分のヒゲだけ残っていて、選手はきれいに私服にアップして汗もないのに、なぜかこのヒゲがズーっと映っていてちょっと違和感を感じました。やはりダービーの試合の振り返りとしては、川崎に対してどういう戦術をとったのか。誰を中心にマークするとか、ディフェンスラインについてどういう工夫をしたのかとかそういう戦略的なことが振り返りの中で教えてくれても。ですからそれが監督なのかもしれませんが、行ってもらうのも良かったなど。「波戸の一手」の解説も、解説自体はわかりやすかった

んですが、ただ一方では他局でもあるように、ポインターとかで。たとえばディフェンスラインをマークしてもらおうとか、「この選手が起点になりました」といったときは、解説対象の選手をわかりやすくマーキングしたりとか、スローモーションだったりとか、ときにはストップモーションをかけて、私たちが画面で追っていけるように。すごい詳しい人はその動きについていけるかもしれませんが、私はまだまだそこまでいなくて、解説というときはそれがほしいなと思いました。あと吉尾と遠藤のインタビューに関しては、「代表の活躍」とかを言っておきながら放映権の問題もあるんでしょうけど、代表試合の生の映像もスチールも全くなくて。遠藤なんか起点になったという話も出ながらそれがなかったのはさみしかったなど。それから波戸が偉大な先輩だったから、しかもアンバサダーというお役をやっていらっしゃるからなんでしょうけど、2選手ともとても堅くて。まさに波戸さんが日常のもっとというのが出てこなかったといっていましたけど、遠藤なんか、CMの前にちょっと映った、波戸が「君が攻撃の起点になったよね」と言ったらすごい率直に喜んで「わかってくれる人がわかってくれると」みたいなシーンがあったと思うんですが、そのあと和んだところでのインタビューをもっと使ってほしかったなというのがあって。なんかオフィシャルトークみたいになってしまったのがもったいないと思いました。番組前半で試合とかプロの活動以外に「サッカースペシャルキャラバン」という公益的な活動の紹介もしていただいたのは、やはり選手たちも活動している意義が励みにもなると思うので、とてもいいことだと思いました。ありがとうございました。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして布施さんお願いします。

布施副委員長

サッカーのことはあまりよくわからないんですが、プロスポーツを番組化するというときは、様々な視点がありますよね、それで結構難しい。だからどうい

コンセプトで今回番組を作ろうかと。違ってきてもいいと思うんです、その都度。それがあつ程度うつすらと、「今回はこういう視点から番組を作つてるよ」というのが見えた方が、見ていて安心できる。やはり番組は、創造的に作るものだから、自然そのものじゃないでしょう。意思が働いているものですから。それがちよつとでも出て来ている方がかえつていいんじゃないかと。そうじゃないと、ある種のスポーツの解説とインタビューなどを見ると、すごいプロフェッショナルで、野球でもそうだけど、「どこをどう投げて、あの時はストレートじゃなくてシンカーの方が良かった」とか言つてるけど、どうしてそうなのかは見ている側はわからない。そんなのは当然わかつていて思つて、その人たちは言つてはいるけど、「もうやめてくれよ」と。そういう場面もあつていいけど、私がスポーツを見る時は、私一人で見ることはない。当然、家族で見ているから。私と少なくとも女房と一緒に見ているから、彼女もわかつていないと、ある程度。会話も通じないし、変なことになつちゃう。だからスポーツを見ると夫婦げんかの元になるから、本当。注意しないといけないんですよ。上手にコンセプトをしっかりとつくり出すような番組作りをすると、いいんじゃないかなと思つて。延々と結果論と、誰かがけり込んだというのであれば、ディフェンダーの誰々さんのインタビューを長々やっていると、見ている方は大変つらくて。そんなのは、そんな重要なお茶の間のテーマにならないですね。かといつてあまりお茶の間だとプロフェッショナルリティがなくなつて面白くないでしょうから、バランスの問題ですが。この番組がどうこうというのではなくて、一般論としてコンセプトを始めに考へて、やつた方が見る者にとっては非常に楽しく見られる、安心して見られると思つます。当然 34 年もやつているんだから、コンセプトが、どういふタイプの番組かといふのは細かく分析すれば、いくつかのパターンになつて、その繰り返しであることは絶対に否めないからね。それはそうだからね。で

もそれを意識しながら、お茶の間に出していく。テレビの特性みたいなものを考えた上で、プロスポーツ中継をしていく。その辺は一見難しいんだけど、そこを解決しようという姿勢が出てこない、いつまでたっても。テレビ番組のメジャーな放送にはならないんじゃないの。野球でもそうだよ。サッカーでも多分そうです。そういうところを考えた制作者のコンセプト作りを、始めにやっておく。みなさん担当者がその辺のところが頭の隅にあって、番組を作って「今回はこうだった」「今度はこうやろう」とかいうふうに進んでいくと、34年が35年36年、50年になったときに、すごい立派な番組になっていくと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。この番組が34年も続いているというのは知らなかったです。おそらくマリノスファンにとってみれば、大変たまらない番組だと思います。先ほど高橋さんが冒頭に熱く語ってくれたことで、高橋さんがこの番組にもすごい愛情を持っているなということもこちら側に伝わってきました。ただ、いくつか欠点というか手直しできたらした方がいいなという点がございます。やはりサッカーが進化したものがラグビー、ラグビーから進化したものがアメリカンフットボールとよく言われていまして。球がどこにあるのかということを追うのが、放送の基本的なルールというか、大事なことだと思うんですね。その意味ではサッカーについては、ロングで撮っていて、球がどこにあるのかがよくわかって、非常に試合展開がわかるんですけど。先ほど吉川さんも話していましたが、あまりロングだけなので、選手の表情や微妙な駆け引き、そういったものがなかなか見えにくい点があります。ロングで撮るのは試合展開上大変大事なことです。やはり寄って表情を撮ることも必要ではないかなという気がいたします。それと、もうちょっとサポーターと選手との垣根を取った、もうちょっと密着したような場面が撮れないかなという感じがしました。今ベイ

スターズが頑張っていて 23 日からまた後半戦っていうんですか、始まりますが、最近ではチケットがなかなかとれないと。それだけ会社側が力を入れてやっているんですが、野球とサッカーを同じ土俵では語れませんが、ものすごくファンとの接点があるものすごく近くなっているなという感じがしています。この番組でも、もうちょっとそういうところに近寄っていったら、番組そのものがより面白いものになるんじゃないかという感じがいたします。これは後でお伺いしたいんですが、今、ベイスターズのファンといわゆるサッカーファンは大体数は拮抗していますか。その辺を分かる範囲内でお伺いしたいなと思います。ベイスターズのユニフォームを着た人が、マリノスのユニフォームを着て応援に行くということもあるんですか。それもあとでわかる範囲内で教えていただければと思います。本当に34年続いている番組で、tvkの場合は、ラグビーがやはり放送を長く経験していましたので、そういった意味では、ボールの捉え方というものは、サッカーと相通じるものがあるかと思ひまして。是非長く続けて行ってほしいなと思います。以上です。他に言い足りないこと、言い忘れたことがございましたら。よろしいですか。それでは高橋さんからお答えいただければと思います。

高橋プロデューサー 貴重な意見をありがとうございました。大変参考になります。五大さんがおっしゃっていた小山ですが、今年で二人コンビで番組を始めて 3 年になりますが、最初の頃はまあひどくて。今やっとまともになったのかなという形で。本当に会話ができない状況でして。現行を読むので精一杯で、二人の掛け合いとかなかなかできず、最初は本当に苦労しましたが、やはり3年目になってきておまして、やっと本人たちも慣れてきて、わかってきた部分がありますので、よくなってきたと思います。質問のところはまさにおっしゃる通りだと思います。僕の方も課題として思っているんですが、サッカーは野球と違って難し

い表現が非常に多いのかと横文字で、たとえばバイタルエリアとかアタッキングガードとか、いろいろ言葉があるんですが、そんな言葉を言ったところでわからない方がいっぱいいると思ってまして。その辺をどうすればわかりやすく説明できるかなといつも考えながらやっているつもりですが。もうちょっとその部分は、皆さんが見て理解できる表現を探っていきたいと思います。これは今後の課題にしていきたいと思います。林さんがおっしゃった、監督に話を聞いた方がいいというのは、まさにそれもその通りでありまして。これは取材態勢の部分で、少し言い訳の部分も出て来るんですが。試合が終わりまして監督会見と選手に取材する場所と時間も決められているんですね。選手をインタビューするところがミックスゾーンと言われているところですが。試合終了後15分後から10分間ぐらいの時間が決められていまして、その間に同じタイミングで監督インタビューもやっている状況で。スタッフの問題もあるんですが、こっちに行ったら監督が撮れないという状況がありまして。どちらかという僕の見解ですと、フランス人の監督は毎回コメントすることも同じな形で、見せてもつまらないかなというのがあって。でしたら選手たちにいっぱい話を聞いて表現した方がいいのかなというのがあります。ただ戦術の部分で詳しい話があった方がいいというのは、まさにその通りですので、その辺は監督の言葉を借りてもっとわかりやすく説明できるのかなとも思いますし。そういう態勢、監督インタビューも撮れるような態勢も考えつつ、要所要所では監督の方を出す形で努力していきたいと思います。あと子供のサッカー教室の話が出たかと思うんですが、あれは今年でクラブ自体、2年前まで「マリノスタウン」が西区の方にあっただんですが、2年前から港北区の日産スタジアムの横に練習場を設けて、ホームタウン事業として港北区の小学校に選手たちがそれぞれ担当わけをされて巡るという、今年で7年目か8年目になるそうです。そこ

に行くときにカメラで僕らは取材へ行くんですが。そこで一つ苦労話なんです。最近小学校の生徒さんを映しちゃだめだという親御さんが結構多くて。すみわけされるんですね。映してもいい子供は白い帽子をかぶっていて、映しちゃダメな子は赤い帽子をかぶっています。あとはビブスを着たりという子もいますが。サッカー教室が始まったら映していいこといけない子はごっちゃになってやっちゃうので。だからなかなか子供たちが楽しんでいる風景が撮れないんです。なので選手が中心の喜んでる映像になってしまうんです。学校によってはそういうのがないというところもあるんですが。そういう苦労もあるんですが。こういう取り組みを紹介することも僕たちは意識してやっていますので、これからも続けていきたいと思っています。あと小山のシールの件ですが、あれはすみません、僕が指示したんですが。ミックスゾーンに行ったらFMヨコハマのリポーターが付けていたんです。それでうちもつけなきゃいけないだろうということでシールを貼らせていただいたやった経緯がありました。あとはポインター、わかりやすい解説の中で、CGをもっと使ってやりたいなと思っています。まだどうやってできるか態勢も含め、うちの技術的なことも含めて。たとえばキー局さんのサッカー番組ですと、取り上げている選手に丸の円陣でやって追いかけている。ああいうのもずっとやりたいなと思っておりますが、僕らの技術不足もあってできない状況ですが、いずれそういったものももっとわかりやすくするためにはやっていかなきゃいけないと思っています。サッカーと野球のファンの数についてですが、僕の印象ですが、ベースターズの担当もちょっとさせていただけいたんですが、やはりまだまだ野球の方が圧倒的に多いと思います。マリノスのクラブも当然応援番組として一緒にタックを組んでやっていますが、一つのクラブ側の意向としてはやはりスタジアムにお客さんを呼びたいというのが第一の考えとしてあります。これも余談に

なりますが、ダービー中継をうちがやるときに、本当は「やらないでくれ」と。「テレビでやったらスタジアムにお客さんが来なくなってしまうので、やらないでくれ」みたいな話もあったんです。「でもやることによって、次の試合から、あまりファンではないお客さんが行くようになりますので」という形で勧めをさせていただきました。クラブはどれだけお客さんをスタジアムに呼ぶか。せっかく7万2千人全部で入りますから。今年が最高で、この試合で4万人。普段ですと3万人行くか行かないかぐらいで。たとえば申し訳ないんですが、甲府や地方の鳥栖とか相手だと、本当に2万人に届かないぐらいのスタンドの数になります。Jリーグの観客動員数の記録を持っているのはマリノスでして、2013年に優勝がかかった試合を、新潟との、勝てば優勝という試合を日産スタジアムでやったんですが、それが6万9千。浦和の埼玉スタジアムを抜かまして、というのが。今のJリーグの中の試合の観客動員数トップがマリノスということになっています。とにかく、この番組に関しましては、ファンに向けての番組ですが、僕の方でも課題を持って、ファンでない人にも見ていただくような紹介の仕方、やり方は今後やらなきゃいけないなど。日産スタジアムへ行くと視聴率は100%なんですね。もう小山と波戸さんが歩いているだけでみんな寄ってきて「見てるよ」という部分で。それ以外の部分で、これはクラブの理念にも通じると思うんですが、もっとスタジアムにお客さんを呼びたい、そのためには僕らも、そういったちょっとライト層というんですか、そういうファン、サポーターに向けてもっと発信していかなきゃいけないということも課題に持っています。ただこういう番組に携わっておりまして、マリノスはJリーグの中でもトップクラブの一つで、こういう形で携われて毎日面白いですし、楽しいですし、これが番組に表れていたら本当にうれしいことですし、これからももっともっと続けていきたいなと思っております。

山田委員長            ありがとうございます。他に何かご意見はございませんか。

白石委員              ちょっと聞きたいんですが。先ほどの子どもたちの赤白帽子の件、保護者の言い分っていうのは何なんですか。

高橋プロデューサー   プライバシーなんでしょうか、映さないでくれという保護者の方が非常に増えているみたいで。

嶋田報道局長        普通のニュース取材などでもよくあるんですが。お子さんが嫌がっているというよりは、学校側が「映していい許可を取っていないので」と、自衛策として「顔を移さないでくれ」というケースがすごく今増えています。ここ数年ですごく。以前は、十年前二十年前なんかは、お互いに気にせず、「映る分にはいいだろう」ということだったんですが、それをやはり学校や教育機関としても、何度かクレームが来たりとか。「勝手に映して」というところがあったところから、やはり「事前に許可を取れていない子どもは全く映さないでくれ」と言われるケースがすごく多いですね、今。こちらは非常にやりにくくなりますが。

白石委員              低学年の子どもだけ。

中村社長              高校生ぐらいでもそうです。

吉川委員              いろんなご家庭の事情もあって、どこの学校に行かせているかということを別れた相手方に知られたくないとか、そういう事情があるご家庭が映るとクレームになるので、学校も自衛しているんです。

高橋プロデューサー   まさにそういった。

山田委員長            これから高校野球が始まりますが、高校野球の試合を見に行っても、大きなカメラを持っているとやはり白眼視されますからね。すごくそういうのが強くなりましたね。まあやりにくいと言えばやりにくいですけどね。一つお伺いしたいんですが、今の試合でカメラは何台入っているんですか。

高橋プロデューサー   2台です。

山田委員長           どっちとどっちですか。

高橋プロデューサー 上のカメラがいわゆるテレビ用のENGカメラで、下カメラはディレクター、僕らがデジカメで回して撮っています。

山田委員長           他にございませんか。ないようでしたら、3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

近藤編成部長       視聴者対応についてご報告いたします。こちらの2枚です。「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」「かながわ旬菜ナビ」が群を抜いているんですけど、やはり4月から始まりました「関内デビル」こちらの方に大変多くのご意見、問い合わせをいただいています。「関内デビル」という番組に反響が多いということが推測できるかなと考えております。その他のところで先ほどの「フロンターレ・マリノス戦の放送をありがとうございます。野球だけでなくサッカーもあります。もっと放送してください」というご意見もいただいております。あとは目を通していただければと思います。以上になります。

山田委員長           ありがとうございました。事務局から視聴者対応について説明がありましたが、これについてご意見ご質問等がありますか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の議事報告に移りたいと思います。

#### 議 事 報 告

山田委員長           それでは、本日の議題はこれですべて終了しましたが、事務局から何か伝達事項がございましたら。

近藤編成部長       それでは次回の放送番組審議会のご案内です。第377回の審議会は7月18日火曜日で、時間が午後4時からとなっていますのでご注意ください。この審議会の後に懇親会がございますので、是非ともご出席いただければと思います。また次回視聴合評番組は毎週日曜日の「カナフルTV」、神奈川県さんの広報番組です。7月2日、JAXAの特集になりますので、そちらをご覧ください。

いただき視聴合評いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

山田委員長

それでは、他にございませんか。ないようでしたら今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。